

B型肝炎ワクチン

B型肝炎ウイルスの感染を予防することによって急性肝炎（まれに劇症肝炎）やキャリア化（キャリア化による肝硬変、肝臓がん）にならないようにします。→[B型肝炎](#)

スケジュール

生後2か月に1回目、2回目を4週間以上あけて接種します。3回目（追加接種）は1回目から20週以上開けて接種します。

日本ではB型肝炎ウイルスの感染者は100万人（100人に一人）と推定されています。慢性肝炎になると長期に渡って治療が必要で肝硬変や肝臓がんなどの原因にもなります。また、急性肝炎から劇症肝炎を起こし死に至るケースもあります。日本では母子感染（垂直感染といいます）予防でワクチン接種されていましたが、父子感染や経路不明の感染で乳幼児が増えており平成28年10月から定期接種となりました。

ワクチンは生後すぐから受けられますが、定期接種は2か月からです。日本では妊婦がB型肝炎キャリアかどうかの検査をしていますので、母子感染（垂直感染）の心配がない子どもは必ずしも、出生直後に接種する必要はありません。3歳未満で感染すると慢性化しやすくなりますが、できるだけ早く接種すれば免疫もでき易く将来の肝臓がんを予防できます。**必ず生後2か月からヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンと同時接種で受けましょう。**可能であればロタウイルスワクチン（自費）も同時に受けてください。